



# しーきゅうぶ東海村

特定非営利活動法人 (NPO)HSEリスク・シーキューブ東海村支部広報誌(年4回発行)

## リスクを語りあえる社会を目指して

HSEリスク・シーキューブ代表理事 谷口武俊

2003年末から2005年3月まで東海村で行ってきた「原子力  
技術リスクC<sup>3</sup>研究：社会との対話と協働のための社会実  
験」プロジェクトは、「リスクの考えはなじまない」と言われ  
ていた日本社会に、小さいが重要な足跡を残して終了しまし  
た。このプロジェクトに参加した住民や研究者の『東海村を  
起点にリスクコミュニケーション活動を』という熱い思いが  
重なり、NPO法人化を決定しました。

現代社会は科学技術の開発・利用を抜きには語れないし、  
成り立たちません。市民一人ひとりが、自分の価値観や生活  
に照らして、リスク情報を読み解き、その重要性や対処方法  
に関して判断できる能力をもつことが必要です。同時に、行  
政や企業、専門家にすべてを一任するのではなく、市民も重  
要な利害関係者としてリスク評価やリスク管理に関わるプロ  
セスを用意し、社会全体としてリスクを最小化する仕組みが  
求められます。

私たちは、市民のリスクを判断できる能力の向上と多様な  
利害関係者による共考・協働プロセスを実現する取り組みで  
あるリスクコミュニケーション活動を意識し進めていきたい  
のです。この活動が多くの人に認められ、社会に定着するよ  
うに様々な方々とパートナーシップをもち、「何かが変わる」  
という意識の共有を生み出し、小さくても成功体験を積み重  
ねていきましょう。目に見える形のリスクコミュニケーション  
活動の成果を東海村から発信しましょう。皆さん、ぜひ一  
緒にやりませんか。

第1巻 第1号(秋)	
2005年10月18日発行	
巻頭言・コラム	1
視察報告「原子燃料工業」	2~4
原子力マップ・旧跡を訪ねて	5
設立特集しーきゅうぶの足跡	6
活動報告	7
会員募集・活動予定・後記	8
表紙題字 山口歎一	



たにぐち たけとし

### 広報誌創刊号発刊に思う

NPOしーきゅうぶ東海村代表 佐藤隆雄(白方在住)

NPOしーきゅうぶ東海村は、原子力の安全性、安心感向上を目指して市民活動をしています。活動の結果はできるだけ多くの村民の方々に知っていただき、ご批判や激励をたくさんいただきたいと思っています。そのためにこの広報誌は大きな役割を担っています。どのように編集するか7月末からみんなで議論を重ねて、この創刊号をまとめることができました。

村民の皆様からはまだまだと、いろいろなご意見があるかと覚悟していますが、とりあえず創刊号を発刊できましたので、ぜひ中身をご覧くださいと思います。

# 原子燃料工業株式会社東海事業所視察

2005年6月22日（水）  
13時～17時30分

- 視察の概要** 視察者：11名  
13：00～ 東海事業所に集合、森所長よりあいさつ、事業所紹介ビデオの映写、視察の諸注意  
13：20～ 2班に分かれて視察  
沸騰水型原子炉用ウラン燃料加工工場  
廃棄物倉庫  
原料保管庫（新設未使用）  
部材工場  
16：30～ 各部門担当者を交えて議論  
17：30 退出・解散



## 事前説明会及び視察時の主な質疑内容（C：し - きゆうぶ東海村 / G：原燃工）

1. 東海事業所の概要と近隣住民との対話活動について  
C：緑ヶ丘団地との確認書とはどういうものか。  
G：東海事業所の建設工事を始めるにあたって取り交わしたものの。村・団地・事業所の3者の確認書である。  
C：周辺住民とはどのような関係作りをしているか  
G：緑ヶ丘地区とは連絡協議会をつくり、年1回の対話を続けている。周辺地域（須和間・押延・緑ヶ丘・川根）との交流スポーツ大会も年1回実施。
2. 東海事業所の事業活動について  
C：沸騰水型原子炉用燃料の設計はどこでやっているか。  
G：当社で行っている。設計から開発、製造まで自前の技術をもって事業を行っている。  
C：日本の使用量のどのくらいを製造しているか。  
G：沸騰水型原子炉用取替燃料の約30%を製造している。残りの約70%は横須賀にあるグローバル・ニュークリア・フュエル社が製造している。  
C：ウラン加工のどこからどこまでが原燃工の仕事か。  
G：当社の責任範囲は、電力会社が支給するウラン粉末を引き取り燃料に加工して発電所に燃料集合体を納めるところまで。  
C：放射線に関する特別な管理をしているか。  
G：ペレットはウランがむき出しの状態なので、放射線のレベルが低いといっても厳しい管理をしているが、燃料棒内に密閉するとペレットほど特別な管理は要しない。  
C：周囲への放射線の影響はどの程度か。  
G：社員が1年間に5ミリシーベルト（mSv）以上を受けないことを管理目標としている。昨年の実績で、作業員の年間被曝線量は最大2.5mSv / 年、平均0.2mSv / 年で健康には影響ない。

### 視察準備・実施・報告の経過 2005年

- ・2月末  
C<sup>3</sup>設立準備会、原燃工に視察実施への協力を要請
- ・4月7日  
C<sup>3</sup>設立準備会、原燃工を訪問。視察に対する協力を要請
- ・4月12日  
原燃工より視察受け入れ承諾
- ・5月13日原燃工会議室  
視察実行委員会。事業および施設の概要説明を受け、視察対象施設を決定
- ・6月16日原燃工会議室  
事前説明会
- ・6月22日原燃工  
視察実施
- ・7月27日C<sup>3</sup>設立準備会、視察レポート提出
- ・9月9日原燃工会議室  
視察レポート「C<sup>3</sup>の見解と提案」に対する原燃工からの回答と追加の議論実施



### 3. 経営と安全管理について

C: 多くの原子力発電所が停止したことにより、製造量が低下して経営的に問題が起きることはないか。

G: 確かに経営に影響はあるが、1~2年は発注が減少しても大丈夫なように1972年の会社設立以来備えてきている。

### 4. 保安検査や防災訓練について

C: 保安検査は年何回で、どんなことをやっているか。

G: 年4回である。前回検査から今回までの記録を確認することが中心。記録の記載方法や内容について質問される。

## 視察日の質疑応答



C: ペレットの加工・成型の際にウラン粉末を水で洗って再利用していると聞いた。水の処理はどうしているか。

G: ペレットの研削・洗浄に使っている水は純水を使っており、循環して使っている。研削廃水を遠心分離方式でウラン粉を分離してスラッジとして回収し、乾燥させて再利用している。

C: ペレットがあっという間にできることを知って驚いた。ウラン粉末の作業場が狭くて危険と感じた。また、ウラン粉末用の袋の処分はどうしているのか。ウラン粉末が着いているということで、その汚染対策はどうなっているか。

G: ウラン粉末の入った缶は、エレベーターで上げるので危険な作業ではない。また、この袋は低レベル放射性廃棄物として処理している。

C: 原子燃料がどのくらい集まると臨界になるか。

G: 制限値は、水没条件で臨界になる質量の半分以下である。5%の濃縮ウランが水没の場合で数10kgオーダーである。水がない場合は数100kgと1桁違う。



## 安全対策に関する全般的な評価（視察レポートより転載）

- ・ 臨界安全対策、臨界安全教育がなされ、臨界事故には十分注意していることがわかった。
- ・ ほとんどが自動化された工程であり、さらに高度な品質管理がなされている。
- ・ 労働安全に気を配っており、工場内の整理整頓、清掃はしっかり行われている。
- ・ 燃料製造の機微にわたるものまで含めて、ていねいな回答をしていただいた。
- ・ 住民にも安心して見学できる場所だと伝えられる施設である。
- ・ 工場入口に作業スタッフの顔写真が意気込みとともに紹介されており、気持ちよかった。
- ・ 部材工場では切削作業を行っていたが、オイルミストの飛散もなく清潔な工場であった。
- ・ 廃棄物倉庫にも地震対策が行われていることはすばらしい。



## 原子燃料工業株式会社東海事業所について

東海事業所は1980年に東海製造所として操業を開始しました。電力会社の委託で原子燃料を製造し、発電所に納品するまでを担っています。東海事業所は、東京電力をはじめ東日本地域に多い沸騰水型原子炉用の燃料を製造しています。

所在地：東海村村松3135 - 41（緑ヶ丘団地に隣接）

敷地面積：約15万㎡（東京ドーム約3個分）

従業員数：約270名

東海事業所では、電力会社が購入したウランを別の工場で二酸化ウラン粉末に再転換し、ペレットとよばれる円柱形の小さな塊に圧縮成型して焼き固め、ジルコニウム合金のパイプに入れて、燃料集合体に作り上げるのが主な仕事です。完成した燃料は、厳重な警備により各原子力発電所に運ばれます。東海事業所の生産能力は年200トン。

工場内は整理、整頓と清掃が行き届き、設備はほぼ自動化されています。燃料集合体は、いくつかの製造段階で何度も検査され、高い品質を確保するようにしています。

品質管理や環境管理の認証を取得するとともに、2004年には労働安全衛生マネジメントの認証も受けています。

## シーキューブ受け入れについて

原子燃料工業株式会社東海事業所

原子力事業所は、今や「広く一般へ開かれた広報」を行うことが重要であり、当社でも近隣地区を中心に積極的に展開してきたつもりである。そういった中でシーキューブより今般のご提案を受けた。

正直、当社の規模でここまで突っ込んだリスクコミュニケーションが必要だろうか？という戸惑いがあった。しかし半年間のシーキューブメンバーとの交流を通じ、事業所の放射線・臨界・一般安全管理等の活動について意見交換を行い、ご理解頂くことができ、大筋においては良い方向に向かっているということが一般村民の視点から確認していただけたことは有意義である。

特に労働安全衛生活動ではメンバーの方が現役時代に苦労された経験をもとに様々なご意見を承り、早速採用させていただいたものがあり、とても新鮮であった。

近年は官公庁等の巡視・検査等を受ける機会が増え、第三者の目に触れることが多いが、それは原子力関係者内での第三者であり、全くの一般の方々との深い意見交換の機会は思いのほが少ない。シーキューブの今後の活躍を見守りたい。



上の写真と図は原燃工ホームページから転載させていただきました。

## 東海村周辺原子力事業所&旧跡マップ



- ① 日本原子力研究開発機構  
原子力科学研究所
- ② 日本原子力研究開発機構  
核燃料サイクル工学研究所
- ③ 日本原子力発電(株)
- ④ ニュークリア・ディベロップメント(株)
- ⑤ 東京大学大学院工学系研究科
- ⑥ 原子燃料工業(株)
- ⑦ (財) 核物質管理センター
- ⑧ 三菱原子燃料(株)
- ⑨ (株) ジェー・シー・オー
- ⑩ 住友金属鉱山(株)
- ⑪ 日本照射サービス(株)
- ⑫ 第一化学薬品(株)
- ⑬ 三菱マテリアル(株)  
環境・エネルギー研究所
- ⑭ 日本原子力研究開発機構  
那珂核融合研究所



軍馬供養碑 (ア)

### 旧跡をたずねてー東海村再発見 (中丸地区)

原燃工の視察にちなみ、今回は周辺の旧跡を訪ねてみた。初秋の薄曇りの中、取材班は原燃工前を 10 時頃出発。「緑豊かな中丸地区を歩く会」作成の古道巡りの地図を参考に、原燃工を遠望しながら自転車を走らせる。

まず八幡神社および馬頭観音を訪れた。馬頭観音は産業道路に面した大型の石碑である。神社は道路からやや奥まったところがあり、訪れる人も少ないようだ。お参りし、次の天王神社に向かう。林間にあり、静かであった。ここからは古道を通ることにして、道標と軍馬供養碑 (ア) を経由し、押延の千手観音におもむく。千手観音を拝観したかったが、扉は閉ざされ隙間からのぞくだけ。

途中、11 時過ぎに中丸コミセン (イ) で休憩をとる。トイレや水があり、ありがたい。さらに古道をたどり住吉神社 (ウ) に至る。有名な神社であり、境内はきれいに清掃されていた。社の左右に上諏訪と下諏訪神社が祀られている。ここ須和間の地名の由来となった故郷の諏訪湖周辺を偲んで、古人が建立したとのことである。

さらに別の馬頭観音、須和間墓地の六地藏を経て、12 時頃須和間古墳群 (エ) に到着した。現在では丘の上だが、古墳の建造当時は入海に面していたのだろう。しばし当時の生活を偲んだ後、帰途についた。[寺西一夫]



須和間・住吉神社 (ウ)

## 「東海村の環境と原子力安全について 提言する会」年賦

### 2003年

- ・1月 原子力安全・保安院の公募研究への参加者募集を開始
- ・4月 応募者6名で「東海村の環境と原子力安全について提言する会」を発足。毎月1回の定例会で、東海村の住民にとって重要なリスクコミュニケーション活動の議論を開始
- ・7月 住民の視点で原子力事業所の安全対策を視察する活動を決定
- ・10月20日 第1回視察 - 旧核燃料サイクル開発機構東海事業所の再処理施設と廃棄物施設。04年2月に視察レポートを提出し、5月にサイクル機構からの回答を得た。

### 2004年

- ・3月 参加者募集終了。計16名
- ・5月より リスク勉強会（全9回）
- ・6月14日 第2回視察 - 日本原子力発電株式会社（原電）の東海発電所廃止措置。8月上旬に視察レポートを原電へ提出
- ・7月 「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」と柏崎市での交流会
- ・7月26日 第3回視察 - 原電東海第二発電所。9月上旬に視察レポートを提出。第2回、第3回の視察について、12月原電と議論した。
- ・9月30日 第4回視察 - 平成16年度茨城県原子力総合防災訓練。11月下旬、東海村へ視察レポートを提出。レポート提言内容は、東海村原子力安全対策懇談会（原安懇）や東海村原子力防災対策検討会議の資料に採用された。

### 2005年

- ・2月 活動終了。定例会は計21回開催

## 「NPOしーきゅうぶ東海村」のあゆみ

### 2005年

- ・3月 「C<sup>3</sup>設立準備会」として再出発
- ・6月18日 NPO設立総会実施  
これまでの活動を「HSEリスク・シーキューブ東海村支部」として続けることを決定。支部の通称は「NPOしーきゅうぶ東海村」
- 【視察の継続実施 - 視察グループ】
- ・6月22日 第5回視察 - 原子燃料工業(株)
- ・7月末視察レポート提出。
- ・9月レポート内容について原燃工と議論
- ・9月30日 第6回視察 - 平成17年度茨城県原子力総合防災訓練。村より正式に第三者評価報告を依頼される。
- 【住民との対話 - 会員拡大グループ】
- ・8月6日 東海まつりテントブース出展
- ・10月20日 中丸地区の皆さんとの懇談会「原子力ティータイム」開催予定
- 【広報誌の刷新 - 情報提供グループ】
- ・7月27日より広報自主研修会（全6回）を開催し、新広報誌（本誌）の企画立案を行う。視察計画に合わせ、年4回発行予定

### しーきゅうぶ 報道の記録

- ・2003年6月22日常陽新聞  
「リスクコミュニケーション構築へ 住民と原子力事業所が情報共有」
- ・2004年9月30日18時NHK首都圏ニュース  
「臨界事故から5年」
- ・2004年9月29日新潟日報  
「原子力防災は今 JCO臨界事故から5年 風化」
- ・2004年12月22日朝日新聞「共生への歩み」
- ・2005年6月19日朝日新聞  
「原子力施設住民参加で監視」東海村
- ・2005年9月27日毎日新聞茨城版 いばじん  
「主体的に動き 安心実感」



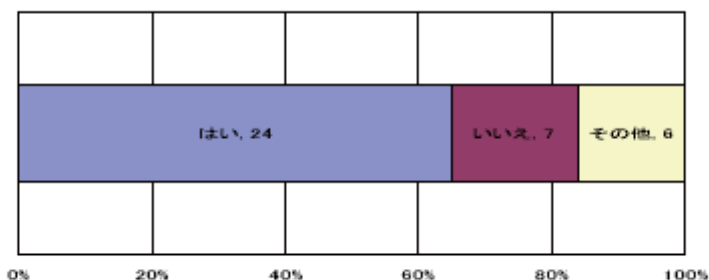
## 東海まつりに参加！ 8月6日（土）午後1時～7時

東海駅前にはテントをはり出し、原子力事業所視察の写真パネル展示とアンケート、飲み物サービスを行いました。テントに立ち寄られた方お一人おひとりとお話ししました。

「よい活動なのでがんばってください」との声、「原子力はよくわからないが何となくこわい」との声、原子力事業所見学に行ったという元気な小学生の声。年齢も子どもから高齢者まで幅広く、大勢の方とふれ合って活動への勇気をいただくことができました。今後もこのような機会をとらえて、住民どうしの交流を深めていきたいと思ひます。

### 東海まつりアンケート報告

「原子力についてこれから学びたいと思ひますか」との問いに対して、回答者37名のうち65%の人が「はい」と回答。高い意欲はあるが「親しみやすくする工夫が必要」など、原子力は理解が難しいとの印象からの意見が目立った。



### 茨城県原子力総合防災訓練視察

9月30日（金）午前8時～

し - きゅうぶ東海村では、昨年に引き続き原子力総合防災訓練に視察参加しました。

昨年は自主的な視察・報告活動でしたが、それが評価され2年目の今年は、村から正式に第三者評価報告を依頼されたことが大きな前進です。9月9日、村原子力対策課との打ち合わせを行いました。11月初め、報告書を東海村に提出する予定です。視察の詳細は次号で。

## 設立総会と東海村支部の活動紹介

6月18日（土）午後2時～5時 東海村合同庁舎

特定非営利活動法人「HSEリスク・シーキューブ」の設立総会を、6月18日午後開催しました。議案はすべて可決され、設立総会は無事終了しました。

続いて東海村支部通称「し - きゅうぶ東海村」の今後の活動方針の説明を行いました。視察・会員拡大・情報提供の各グループリーダーからは活動計画が説明されました。

参会者との懇談会では、東海村支部への激励のお言葉を多数いただきました。暖かな雰囲気の中にも、今後の活動に対する責任の重さを感じ、会員みな身の引き締まる思いがいたしました。

\*\*\*\*\*

「HSEリスク・シーキューブ」と東海村支部は、9月29日に内閣府に設立認証され、10月5日に法人登記して特定非営利活動法人となりました。



## 「NPOし - きゅうぶ東海村」について

「NPOし - きゅうぶ東海村」の前身である「東海村の環境と原子力安全について提言する会」は  
シーキューブ  
2003年より「原子力技術リスク C<sup>3</sup> 研究：社会との対話と協働のための社会実験」の一環として活動してきました。2005年2月、実験が終了し任意団体から特定非営利活動法人（NPO）への組織変更計画が具体化しました。

「C<sup>3</sup>設立準備会」を経て、NPO「HSEリスク・シーキューブ東海村支部」、通称「NPOし - きゅうぶ東海村」として活動を続けています。

私たちは、健康（Health）・安全（Safety）・環境（Environment）に関するRisk  
ヘルス  
セーフティ  
エンバイロメント  
リスク  
コミュニティ  
について、地域社会（Community）との対話  
コミュニケーション  
コラボレーション  
（Communication）と協働（Collaboration）を大切にしています。

そのうえで自分の価値観や生活に照らしてリスク情報を読み解き、その重要性や対処方法を判断する能力をつけるため、リスク・コミュニケーション活動に取り組みます。

## 会員募集のお知らせ

し - きゅうぶ東海村と一緒に活動してみませんか？ 日本のエネルギー事情、子どもたちの将来のこと、原子力事業が少しずつ見えてきます。議論するって楽しい！

正会員（個人）議決権あり

入会金3000円 / 年会費5000円

活動会員（個人）議決権なし

入会金3000円 / 年会費3000円

賛助会員（個人・団体）議決権なし

個人入会金2000円 / 年会費1口2000円

団体入会金10000円 / 年会費1口50000円

### HSEリスク・シーキューブ 全体事務局

〒100-8126 東京都千代田区大手町1-6-1

TEL: 070-6568-8991 FAX: 03-3287-2805

担当: 土屋智子 tsuchiya@criepi.denken.or.jp



## し - きゅうぶ東海村活動予定

2005年

- ・ 10月20日（木）午後2時  
原子力ティータイム：中丸コミセン
- ・ 10月28日（金）・29日（土）  
茨城NPOフォーラムinつくば参加：  
筑波学院大学
- ・ 11月9日（水）午後2時  
定例会：合同庁舎
- ・ 12月8日（木）午後2時  
NPO認証記念パーティー：中丸コミセン
- ・ 12月9日（金）午後2時  
定例会：合同庁舎

2006年

- ・ 1月13日（金）午後2時  
定例会

### 次号予定（2006年1月18日発行）

巻頭言：東海村長 村上達也氏

視察報告：茨城県原子力総合防災訓練

NPOし - きゅうぶ東海村 新聞記事集

編集後記 東海村支部としては初めての広報誌を発行するため7月末から広報自主研修会を行いました。暑さの中、お盆以外休むことなく毎週企画・編集活動を続け、涼くなっただけで新規創刊号が完成いたしました。以前のように全戸配布はできませんが、一人でも多くの方の手に届くことを願っています。[床井]